

ニセ電話気づかせ隊 表彰



JA筑紫は、5月30日に福岡市の福岡県警察本部で行われた「ニセ電話気づかせ隊団体表彰式」に参加し、小川洋知事から表彰状を受け取りました。JAが、金融店舗利用者への声掛けや、広報啓発などを通じて、ニセ電話の被害防止に大きく貢献した功績を讃えたものです。

「気づかせ隊」は2015年6月に発足。県内の8,599団体、約29万人が参加し、活動を普及する推進委員会の委員長を小川洋知事が務めます。発足から1年となるのを前に、被害の阻止に協力した金融機関など20団体を表彰しました。JAは急増するニセ電話詐欺を未然に防ぐために、職員間での情報共有や、のぼり旗やステッカーなどでの注意喚起を行い、実際に金融店舗で被害を未然防止しています。

藤組合長は、「これからもJA筑紫の理念である地域貢献活動を積極的に展開し、地域に密着した金融機関としての務めを果たしてまいります。」と話していました。

「野菜づくり頑張る」修了生10人が決意表明



JA筑紫は5月30日、営農センターで「第5期ちくし農業塾閉講式」を開きました。この日、門出を迎えた第5期生は10人。修了生は、約11ヶ月間に及ぶ受講期間が終わり、今後学んだことを活かしながらJA直売所出荷者や生産部会員として農業に尽力する予定です。

式には、福岡普及指導センターや行政関係者、JA役職員25人が参加。白水清博専務と宇野宏省常務から修了生に、修了証書と記念品の除草くわが手渡されました。また、全ての講義を受講した2人の修了生に皆勤賞として農具のレーキ(くまで)が贈られました。

白水専務は「農業に年齢は関係ありません。塾で学んだことを活かしながら、末永く農業を続けて下さい。」と激励を送りました。修了生は、「年間を通して野菜が出荷できるように頑張りたい」や「売れる野菜づくりを心掛けたい」など、栽培・出荷目標を一人ひとり述べ、今後の決意を語りました。

スイートコーン出荷開始



JA筑紫のスイートコーン研究会は5月28日、ゆめ畑にスイートコーンの出荷を始めました。店内に並んだ旬の産物に、店舗は賑わいを見せていました。

研究会は、那珂川町を拠点に活動し、結成3年目を迎えます。作付面積は120aで、早朝収穫してその日に出荷する「朝採り」にこだわっています。採れたての甘さが売りの人気商品です。作付品種は、「ゴールドラッシュ」で、高い糖度と黄金色をした粒皮の柔らかさが特徴。トンネルを用いた栽培で、生育の促進と病害虫対策に努めています。

研究会の坂井隆之さんは「病害虫などの影響もなく、生育は良好。今年も甘いスイートコーンをたくさんの方の消費者に届けたい」と話していました。

筑紫地区営農推進協議会が総会

筑紫地区営農推進協議会は5月27日、「平成28年度筑紫地区営農推進協議会総会」を開催。福岡普及指導センターや行政担当者、JA筑紫職員33人が参加しました。

総会では、2015年事業報告や2016年度事業計画など全6議案が承認。また、規約改正の承認に伴い、名称が「筑紫地区農業振興協議会」に改正されました。

冒頭の挨拶では、福岡普及指導センターの平井保則会長が「関係機関で協力して、農家所得の向上を目指していきましょう。」と話していました。

JA筑紫肥育牛部会が総会

JA筑紫肥育牛部会は5月26日、「第43回JA筑紫肥育牛部会通常総会」を開催。部会員と関係機関、JA役職員22人が参加しました。総会では、新たに平山英一さんが部会長に承認された他、2015年度の活動報告や2016年度の活動計画など全4議案が承認。2015年度は子牛不足に伴う素牛価格の高騰で生産コストが著しく上昇しましたが、高品質な牛肉を安定して生産できる環境づくりに取り組みました。今年度は、引き続き出荷牛の肉質の向上・安定と枝肉重量の増加に努め、約4億5千万円の販売目標達成を部会員が一丸となり目指します。

JA筑紫アスパラガス部会が通常総会

JA筑紫アスパラガス部会は「第16回JA筑紫アスパラガス部会通常総会」を行いました。部会員、来賓、JA職員22人が参加。定例会や圃場巡回、目合わせ会を定期的に行うなど、一丸となって高品質なアスパラガスの生産に取り組むことを再確認しました。新規部会員2名が加入。2015年度の実績報告や、2016年度の活動計画など全4議案が承認されました。

清掃活動で地域に貢献



JA筑紫は、5月21日に太宰府地区の街頭清掃ボランティア活動を行いました。当日は、JA女性部員や、太宰府地区・本店職員76人が参加。太宰府市役所付近を中心に、観世音寺や太宰府天満宮付近の道路の草取りや、ゴミ拾いを行いました。また、参加者がニセ電話詐欺の注意喚起や、飲酒運転撲滅を呼びかけるのぼり旗を掲げ、安全安心まちづくりをPRしました。

福岡県庁で地元野菜をPR

ゆめ畑大野城店は5月19日、福岡県が主催する「直売所出張販売IN福岡県庁」に参加。福岡県庁1階ロビーで地元野菜の出張販売を行いました。アスパラガスやトマトなど、新鮮で採れたての野菜は、好評のうちに完売しました。

福岡県では、食育・地産地消を県民運動として展開。毎月19日の「食育の日」に合わせ、県庁内で地産地消の拠点である直売所の出張販売を実施し、地産地消に対する意識向上と直売所の魅力をPRしています。

大野城店の緒方一寿店長は「地産地消の推進と、JA筑紫管内の農産物のPRが出来た。11月18日開催の出張販売も参加する予定なので、引き続き地元野菜のPR活動を頑張っていきたい。」と話していました。

「イチバンボシ」出来上々



JA筑紫は5月19日から、永岡事業所と那珂川町のライスセンターで、JA筑紫麦出荷者部会の裸麦「イチバンボシ」の荷受けを行っています。次々と裸麦を積んだトラックが出入りし、初日は約106トンを荷受けしました。

28年産裸麦の作付面積は138[㍉]で、約420トンを荷受する予定です。暖冬や多雨の影響が懸念されましたが、出来はおおむね良好。営農生活部農産課の担当職員は、「熱中症に注意しながら、安全に刈取り作業を進めて欲しい。」と話していました。

「支店だより」レベルアップ目指す



JA筑紫は5月18日、本店で「第3回支店だより作成研修会」を行いました。各支店・事業所の作成担当者など29人が参加。印刷会社が講師を務め、支店だより作成における注意点などを再確認した後、参加者それぞれが、実際に支店だよりを作る実習をしました。

JA筑紫は、組合員や地域の人に、店舗や職員を、身近に感じてもらい、情報を発信・共有することを目的に、各支店・事業所ごとに「支店だより」の発行に取り組んでいます。平成27年度は初めて「支店だよりコンテスト」を行い、上位店舗を表彰するなど、紙面のレベルアップに力を入れています。研修を行うことで、さらに充実した内容で地域や組合員とつながる支店だよりを目指します。

マスコットキャラが3歳★



マスコットキャラクター、「ちくしんぼー」と「ゆめっぴー」が3歳の誕生日を迎えました。

親しみやすいJAのイメージを広くPRしようと、2013年にJA筑紫の40周年を記念して誕生。誕生以来、支店・事業所が取り組む「ふれあい活動」や、イベントなどに積極的に参加し、かわいらしい姿が子どもを中心に人気です。

今後もさらに広く愛されるキャラクターとなり、JAのPRに貢献できるよう、活動の強化に努めていきます。

報道関係者に食と農とJAをPR



JA筑紫は5月17日、JA福岡中央会が主催する「JAグループ福岡第2回記者現地懇談会」を受け入れし、報道記者と中央会職員、JA役職員など23人が参加しました。

この懇談会は、福岡県内JAの「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」に関する取り組み事例を報道機関に伝え、食・農・協同組合に対する県民理解の促進を目的とします。

当日は、水稲の育苗作業の現場やゆめ畑筑紫野店などを視察。参加者からは、特に育苗管理に関して多くの質問が飛び交っていました。

参加した記者は「苗づくりで使う播種機を見学し、こんなにも農業で機械化が進んでいるのかと驚きました。」と話していました。

水稲苗配送始まる



JA筑紫は5月13日から「水稲苗配送」を始めました。4月中旬からJA本店グラウンドで健全に育った苗は、配送員が1つ1つトラックへ積み込みました。初日は苗1,774箱を、管内の中山間地を中心に25件の組合員宅などへ配送。今年の水稲苗注文予約は、「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」合わせて約5万3,000箱です。

6月下旬まで、青々とした苗を乗せたトラックが、グラウンドから出発し、水稲の苗を待つ組合員のもとに届けられます。

JA筑紫 年金友の会が地区別大会



5月11日から5月24日までに管内6会場で「JA筑紫年金友の会第36回地区別大会」を開いています。年金友の会は、管内16,522名の会員が在籍。JA口座で年金を受け取る会員を対象に、グラウンドゴルフ大会や旅行など様々なイベントを行っています。11日は、太宰府市の中央公民館で行われた太宰府地区大会には約420人が参加。平成27年度活動報告の他、浄土真宗栄法寺住職の石松昭信氏が「寄り添い」と題した講演を行いました。

青色申告会通常総会を開催

JA筑紫は5月11日、本店で「JA筑紫青色申告会第29回通常総会」を開きました。会員や顧問税理士、JA役員など128人が参加。平成27年度事業報告や、平成28年度事業計画など全4議案が承認されました。

青色申告会の平成28年度は、研修会などを通じた税務・会計知識の習得による適正申告に取り組み、充実した活動と魅力ある会を目指していきます。

講演は、アーティストの野田かつひこ氏を講師に招き、「歌が繋ぐふるさと 命の物語」を演題に、歌とギターの美しい音色で参加者を魅了しました。

資産管理部会通常総会を開催

JA筑紫は5月10日、本店で「資産管理部会第36回通常総会」を開き、部会員と顧問弁護士、JA役職員など103人が参加。平成27年度事業報告や、平成28年事業計画など、全3議案が承認されました。

部会の平成28年度の計画は、社会情勢の変化に対応するため、税制改正に伴う節税対策や経済動向を踏まえた資産運用について情報提供し、今後も継続した研修会・相談会を開いて知識の向上を図っていきます。

講演は、RKBアナウンサーの龍山康朗氏を講師に招き、『「伝える」ではなく「伝わる」を目指して』を演題に、会場を盛り上げました。

平成28年度 第1回福岡食肉市場部会 博多和牛・福岡牛枝肉共励会



「2016年度第1回福岡食肉市場部会 博多和牛・福岡牛枝肉共励会」が9日、福岡市中央卸売市場食肉市場で開催され、JA筑紫肥育牛部会の(有)三宅牧場が見事GC(グラントチャンピオン)に輝きました。

この共励会は、福岡県内肥育農家の飼養技術向上と肉質の安定を目的に、年3回開催されます。今回は、博多和牛40頭と福岡牛16頭が出品。GCを受賞した(有)三宅牧場の博多和牛の枝肉は、BMS(牛脂肪交雑基準)が最高ランクで、美しい色味も評価されました。

賞状を受けとった三宅静代さんは「丹精込めて育てた牛が評価されて嬉しい。今後も皆様に喜んで頂けるように、努力を続けていきたい。」と笑顔で話していました。

CEの適正な管理運営を目指す



JA筑紫は5月9日、物流センターで「平成28年度カントリーエレベーター運営委員会」を開き、組織代表者や行政関係者、JA役職員など19人が参加しました。

委員会では、大規模乾燥調製貯蔵施設の適正な管理や運営を目指し、対象作目の利用・運営計画などを協議しています。

今回は、27年産米麦情勢の結果と、28年産麦の生育状況を担当から説明。その後、28年産麦類処理計画や収支計画等について協議し、全議案が承認されました。

これから始まる麦の荷受は、はだか麦「イチバンボシ」が面積136ha、予定荷受生重量418tで、小麦「チクゴイズミ」が面積171ha、予定荷受生重量666tの利用予定です。

生茶葉約2,000kg荷受け



5月1日と7日の2日間、筑紫野市の物流センター内倉庫で、JA筑紫茶友会の生茶葉計2,000kgの荷受けを行いました。茶友会は、筑紫野市を中心に生産しており、栽培面積は約45a。荷受けした茶葉は、加工後、JA管内のお茶販売店へ出荷されます。また、JA地区別組合員大会でも、毎年参加者に配られ、好評です。